

niponica

Discovering
Japan

No.

26

にほにか



特集

ようこそ、
日本の庭へ



niponica にぽにか^{no.} 26

contents



表紙 / 圓光寺（京都府）
写真 = 土村清治 / アフロ

日本語で「日本」を表す時の音「にっぽん（nippon）」をもとに名づけられた「にぽにか（niponica）」は、現代日本の社会、文化を広く世界に紹介するカルチャー・マガジンです。日本語版の他に、英語、スペイン語、フランス語、中国語、ロシア語、アラビア語の全7カ国語版で刊行されています。

特集 ようこそ、日本の庭へ

- 04 美しき日本の庭園
- 10 日本庭園 様式の変遷
- 14 日本庭園をつくる人
- 16 探してみよう！
各地の日本庭園
- 18 デジタルアートで
表現される日本庭園
- 20 お部屋で楽しむ！
日本の庭園
- 22 召し上がれ、日本
湯豆腐懐石
- 24 街歩きにっぽん
岡山
- 28 ニッポンみやげ
枯山水キット

no.26 H-310329

発行／日本国外務省
〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1
<https://www.mofa.go.jp/>

圓光寺（京都府）の庭園「十牛之庭」。牛を追う童子の様子を描いた「十牛図」を題材にしてつくられた庭園は絵画のように美しい。
写真 = 首藤光一 / アフロ

特集

ようこそ、日本の庭へ

自然を模して、移り行く四季とともに楽しまれてきた日本庭園。
魅力溢れる日本庭園の世界を少し覗いてみませんか。



うつく に ほん てい えん 美しき日本の庭園

写真：首藤光一、田中重樹、佐藤哲郎 / アフロ、(c) Ushio Hamashita/a.collectionRF / amanaimages

ふる れき し に ほん てい えん すがた に ほん ゆた し ぜん
古い歴史をもつ日本庭園。その姿は日本の豊かな自然のなかで
し き おり おり ひょうじょう か め たの
四季折々に表情を変え、わたしたちの目を楽しませる。

桂離宮（京都府）



はる
春

平安神宮（京都府）



あき
秋

小石川後樂園（東京都）



なつ
夏

兼六園（石川県）



ふゆ
冬

神泉苑（京都府）



眺めて感じる 庭園の美

日本庭園を眺める。
眺めながら、自然と一体となる。
日本庭園は目で見て、心で感じるという楽しみ方
をすることで、その美しさの本質に近づくことが
できる。

左 / 退蔵院「余香苑」(京都府 写真: 退蔵院)
下 / 源光庵(京都府 写真: torakichi/PIXTA(ピクスタ))

さらなる 非日常へ誘う路

茶室へと続く路に置かれた飛び石の上を歩いていくと、新
たな空間に導かれるような不思議な気持ちが湧き上がる。
下 / 栗林公園(香川県 写真: アールクリエイション/アフロ)
右 / 旅館「光淳」の庭園(京都府 写真: アールクリエイショ
ン/アフロ)



日本庭園 様式の変遷

自然の風景を模するのが特徴の日本庭園。

その様式はどのように形成され、変遷してきたのか。

時代の影響を受けつつ、独自の発展を遂げた日本庭園の歴史をたどる。

監修：尼崎 博正



上 / 毛越寺庭園（岩手県）浄土庭園の好例。

3. 白水阿弥陀堂（福島県）画面左手に反橋が見える。

日本庭園の特徴

日本庭園は木々、石、砂、水などを用いて、築山、池、流れを芸術的に表現します。洋風庭園が木や石を幾何学的に配置するのに対し、日本庭園は伝統的にできるだけ人の手を加えず、自然のような景観を構成するのです。

古代の庭園

現在知られている限りで日本における最初期の庭園は、飛鳥時代（593～710年）・奈良時代（710～794年）に遡ります。大和地方（現在の奈良県）では、天皇家や有力氏族が大きな池に小島を点在させ、岸边には「州浜」を配して、海の風景をつくりました。

寝殿造の庭園

794年、日本の都は奈良から京都に移り、平安時代（794～1185年）が始まりました。貴族の藤原家が権力の掌握を確かなものにするにつれて、日本独自の発想による芸術文化が発展したのです。このような貴族は

寝殿造と呼ばれる様式で建てられた豪華な邸宅に住みました。この時代の庭園もまた広大なものです。

京都ではいくつかの川が合流し、湧き水も豊富でした。京都の夏は蒸し暑いので、人々は涼感を出そうと池や滝をつくり出し、遣水という流れを邸宅の棟の間や庭に流しました。船で遊べる大きな池を配しており、さらに水の上に張り出し、屋根のある回廊で邸宅の他の棟と結ばれた釣殿を設けて、納涼や月見・雪見を楽しめるようにつくられていました。母屋と池の間は広々と白砂で覆われ、公式行事を行う絵のように美しい場所となりました。

浄土庭園

10世紀から11世紀にかけて、日本の貴族階級はますます仏教の実践に熱心になりました。仏教の正しい教えが衰滅する時代が到来するとの考えが広まるにつれ、庭園は仏典・仏書に書かれた浄土のイメージを模して形づくられるようになります。この様式の庭園の中心は池で、反橋で中島に渡れるようになっていました。岩手県の毛越寺や福島県の白水阿弥陀堂は浄土庭園の雰囲気や今に伝えています。



上 / 龍安寺（京都府）代表的な枯山水庭園。



上 / 水前寺成趣園（熊本県）回遊式庭園。



12 世紀～
禅宗庭園

16 世紀～
茶庭

17 世紀～
回遊式庭園

現代

禅宗庭園

平安時代に続く鎌倉時代（1185 ～ 1333 年）は、武士の勃興と禅宗と呼ばれる仏教の宗派の影響を受けた時代でした。住居や庭園の様式にも変化がもたらされました。武士階級は、たとえ上層の者でも、庭園でさびやかな式典を行う慣習がありませんでした。

日本庭園は次の室町時代（1333 ～ 1568 年）に一つの黄金期を迎えます。山水河原の者と呼ばれる熟練した職人群が枯山水という新様式の庭園創出を担ったのです。これらの庭園は禅宗の強い影響を受け、徹底した抽象化が特徴です。石組みが山や滝を表わし、白砂が流れの代わりに用いられました。このような形式の庭園は世界のどこにも見られません。

さらに、この時代の庭園は書院造という建築の影響も大きく受けました。書院造は、今なお伝統的日本家屋の原型となっています。この建物内から眺める庭園は、書院造の一室である書院に座した鑑賞者の目にあったかも一幅の名画のように映じ、おのずと見る者の注視を誘うように構成されています。



茶庭

茶庭は、静謐な精神性が盛り込まれ、茶人の千利休（1522 ～ 91 年）によって完成された茶の文化と関連して発達しました。茶庭は人工を排してごく自然な外観を保つようつくられており、ここを通過して茶室に向かいます。今日の日本庭園は、飛石や石燈籠、植栽あるいは蹲踞など、茶庭から受け継いだ多くの要素を取り入れています。客が茶を供される簡素な設計の茶亭も、茶庭に起源を持つものです。



回遊式庭園

日本庭園が何世紀にもわたって築き上げてきたさまざまな形式は、江戸時代（1600 ～ 1868 年）、回遊式庭園に集大成されました。有名な景勝を小型化して再現するのに名石・銘木が用いられました。人々は広大な池を愛でながら、その周りを巡り、次々現れる変化に富んだ四季の景色を楽しんだのです。江戸時代初期の作である京都の桂離宮庭園は典型的な回遊式庭園で、中央に池があり、それを取り囲むようにいくつか茶屋



上 / 広い芝生のある新宿御苑（東京都）

が配置されています。いわゆる日本の三名園（茨城県水戸市の偕楽園・石川県金沢市の兼六園・岡山県岡山市の後楽園）や熊本県の水前寺成趣園などは封建領主たちがつくり出した回遊式庭園です。

明治時代（1868 ～ 1912 年）初め、西欧の影響は伝統的な日本庭園の設計にも及び、広い芝生のある空間を取り入れるようになりました。東京の新宿御苑がその一例です。

尼崎 博正（あまさき ひろまさ）

日本の造園学者、作庭家、京都造形芸術大学教授。1992 年、日本造園学会賞受賞。京都芸術短期大学学長、京都造形芸術大学副学長を経て、現在、日本庭園・歴史遺産研究センター名誉所長。

写真：奈良市観光協会、京都文化博物館、Leemu、ふくいのりすけ、shalion/PIXTA（ピクスタ）、首藤光一／アフロ、出水神社、環境省新宿御苑管理事務所

日本庭園をつくる人

日本庭園を維持する庭師たち。
彼らはどんな意識で庭造りに携わっているのだろう。

協力：植彌加藤造園株式会社

文：上江洲規子 撮影：金井元



上 / 庭園内の草花の状態をみて、手入れをする半田さん。

下 / 作業中来園者に声をかけられた時に対応するのも庭師の仕事。庭師は庭園を演出する役割も担っている。



左下から、草取用のこぎり、剪定ばさみ、植木ばさみ、剪定のこぎり。道具は自分に合うものを自分で購入する。

大好きな庭 庭師全員でつくりあげる喜び

半田沙奈絵さん（植彌加藤造園 庭師）

入社4年目の半田沙奈絵さんは、中学の修学旅行で見た京都の日本庭園の自然の良さを生かす美しさに心を動かされた。「ずっと憧れていた仕事なので、入社後に初めて庭園内に張られたロープ柵の中に入り、苔の上にはがみこんで草を引いたとき、喜びが湧き上がってきました」

庭にいられること自体が幸せだと語る半田さんは、仕事が好きで仕方がないのだという。入社してから数年は、作業を学びながら野花の研究に携わった。その知識を活かし、庭園に来園する人に見てもらふ野花のファイルなども作成している。「庭園のすみずみまで目を配りながら、どの程度野花を残すのか考え、一日中でも草引き作業に集中できるのは、女性ならではの感性、長所ではないでしょうか」今は京都の南禅寺の下草管理にも携わっているという。南禅寺は国の重要文化財の種類の1つである「名勝」と指定されている庭を擁する有名な寺だ。

「月に一度、社長や先輩たちが様子を見てくださって、いろいろアドバイスしてもらえます」と、庭師同士が協力し合いながら、庭園と関わる姿が印象的だ。庭師全員でつくりあげる日本の庭園に半田さんは大きなやりがいを感じている。

思いを汲んで調和させる、 日本庭園は日本そのもの

加藤友規さん（植彌加藤造園 代表取締役社長）

京都にある明治時代（19世紀後半～20世紀前半）の代表的な庭園「無鄰菴」。指定管理者でもある植彌加藤造園の八代目である加藤友規さんは、先代の楽しそうに仕事をする姿を見て、日本庭園に魅力を感じてきた。家業を引き継いだ今は、伝統を守る責任を意識している。

庭造りの流れはその土地の気候風土を調査し、計画、設計、施工とつづく。既存の庭、あるいは竣工後は育成管理を手掛ける。植木は一年を通して手入れが必要で、庭の雰囲気はどう合わせるかなど、庭造りには総合的な判断力も要求される。

アメリカのポートランドにあるワシントン・パーク内の日本庭園の庭師への技術指導にも携わる加藤さん。「日本庭園の原則は、現地のものを使用すること。土地の気候風土に相応しい現地の植物を使いながら、自然との調和を重んじる日本の伝統を反映させていくのです」と、海外における日本庭園造りを語った。育成管理作業は、現地スタッフと一緒に手入れしながら指導するが、現地スタッフには、茶道のほか日本文化を体験し、華美ではない自然な美しさとは何かなどを学んでもらい、日本の庭造りに必要な考え方の会得につなげている。

「日本庭園は、施主や代々関わってきた庭師の思いを引き継ぎながら、何百年と育てていくものですが、海外では、新しい持ち主が改造することもあります。また、日本には他の庭園から見える景色を邪魔しないよう、近



庭師一人ができることは限られていると考える加藤さんは、人材育成にも力を入れている。庭師同士で協力し、情報共有しあうことを大切にする姿勢は、若手庭師の半田さんにも受け継がれている。



隣と協力し合う慣わしもありますが、これは日本独特の感覚ではないでしょうか」時間も空間も一続きとなって成立する日本庭園の考え方は、自然の中に身を置き、経験することで習得できると考えている。

「退化と進化をどう調整するか、日本庭園の育成管理だけでなく、若手を育成する中でも考えていきたいですね」と、加藤さんは日本庭園の未来を、柔軟に、前向きに考えている。

海外日本庭園再生プロジェクト

現在、日本庭園は、日本の国外にも500以上あると言われている。しかし、維持や管理が難しく、修復・改修が必要になっている庭園もあることから、日本政府は、そのような庭園を対象とした再生プロジェクトを2017年に開始した。日本から庭園技術者を派遣して、修復事業を実施し、現地の技術者にも分かりやすい維持管理マニュアルを提供するなどしている。

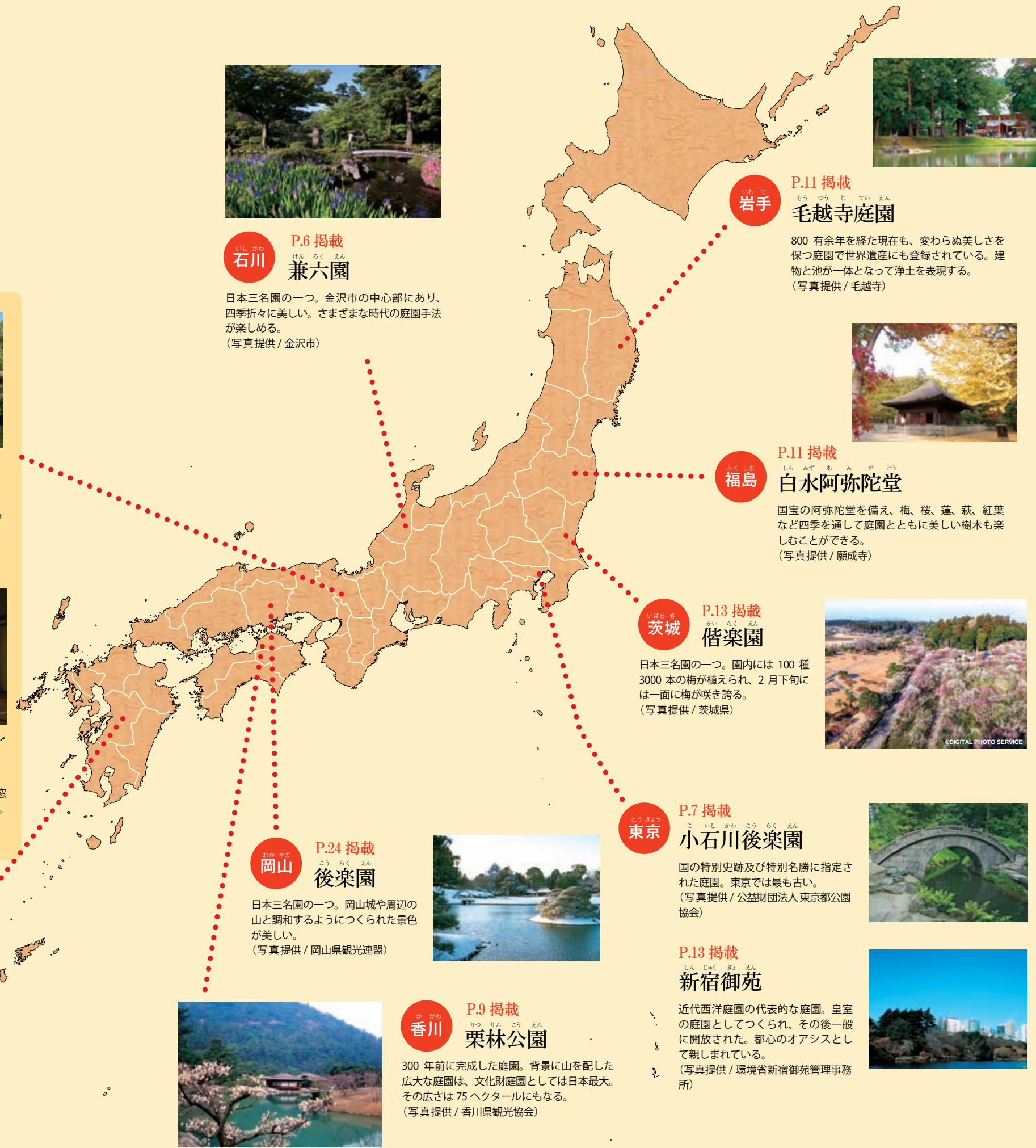


2018年 米国ミシガン州クランプルックの日本庭園での活動の様子



探してみよう！ 各地の日本庭園

あの庭園はどこにある？これまでご紹介した庭園がどの地域にあるのかをマップで確認してみましょう。



きょうと
京都



表紙・目次 圓光寺

目次掲載の「十牛之庭」の奥には竹林が広がり、異なる景色を楽しむことができる。
(写真提供 / 圓光寺)



P.4 掲載 桂離宮

17 世紀に皇族の別荘としてつくられた。日本の美が凝縮された最高レベルの名園。
(写真 / ふくいのにすけ/PIXTA (ピクスタ))



P.7 掲載 神泉苑

天皇のためにつくられた庭園。町中にある緑豊かな庭園として親しまれている。
(写真提供 / 神泉苑)



P.12 掲載 龍安寺

方丈庭園は、枯山水を代表する石庭として知られる。ミステリアスな一面も持つ庭園。
(写真提供 / 龍安寺)



P.8 掲載 退蔵院

名庭「余香苑」では、桜、蓮、紅葉の見頃に期間限定で食事付きの花見会を開催している。
(写真提供 / 退蔵院)



P.8 掲載 源光庵

1346年につくられた禅宗庭園。四角や丸の窓から鑑賞することで違った趣きが堪能できる。
(写真 / HoM/PIXTA (ピクスタ))



P.14 掲載 無鄰菴

自然主義的な新しい庭園観によりつくられた近代日本庭園の傑作。通年公開されている。
(写真提供 / 植彌加藤造園株式会社)



くまもと
熊本

P.13 掲載 水前寺成趣園

清らかな水で有名な庭園。庭園の始まりとなった自然の湧水は今でも滾々とわき続ける。
(写真提供 / 熊本市経済観光局 観光政策課)



いしかわ
石川

P.6 掲載 兼六園

日本三名園の一つ。金沢市の中心部にあり、四季折々に美しい。さまざまな時代の庭園手法が楽しめる。
(写真提供 / 金沢市)



いわて
岩手

P.11 掲載 毛越寺庭園

800 有余年を経た現在も、変わらぬ美しさを保つ庭園で世界遺産にも登録されている。建物と池が一体となって浄土を表現する。
(写真提供 / 毛越寺)



ふくしま
福島

P.11 掲載 白水阿弥陀堂

国宝の阿弥陀堂を備え、梅、桜、蓮、萩、紅葉など四季を通して庭園とともに美しい樹木も楽しむことができる。
(写真提供 / 願成寺)

いばらき
茨城

P.13 掲載 偕楽園

日本三名園の一つ。園内には 100 種 3000 本の梅が植えられ、2 月下旬には一面に梅が咲き誇る。
(写真提供 / 茨城県)



とうきょう
東京

P.7 掲載 小石川後楽園

国の特別史跡及び特別名勝に指定された庭園。東京では最も古い。
(写真提供 / 公益財団法人東京都公園協会)



P.13 掲載 新宿御苑

近代西洋庭園の代表的な庭園。皇室の庭園としてつくられ、その後一般に開放された。都心のオアシスとして親しまれている。
(写真提供 / 環境省新宿御苑管理事務所)



かがわ
香川

P.9 掲載 栗林公園

300 年前に完成した庭園。背景に山を配した広大な庭園は、文化財庭園としては日本最大。その広さは 75 ヘクタールにもなる。
(写真提供 / 香川県観光協会)



デジタルアートで 表現される日本庭園

デジタル技術の発展は、日本庭園の楽しみ方を拡張する。

写真・協力：チームラボ



『小舟と共に踊る鯉によって描かれる水面のドローイング- Mifuneyama Rakuen Pond』。
池に投影された映像の鯉は水に浮かんで進む小舟とともに変化して、池に新たな表情をつくり出す。



左 / 御船山楽園は、日本の巨木 7 位の大きさと樹齢 3000 年以上を誇る神木があることでも知られる。
上 / デジタル技術との融合で、見知らぬ森に迷い込んだような世界が出現する。

庭園の自然をそのまま活かした デジタルアートが伝えるもの

九州の佐賀県にある御船山楽園は、50 万平米もの広大な敷地と池を有した壮大な庭園である。この庭園では 2015 年からデジタル技術を駆使したアート展が開催されている。デジタル分野のスペシャリストから構成されているアート集団チームラボが展開する『かみさまがすまう森』である。

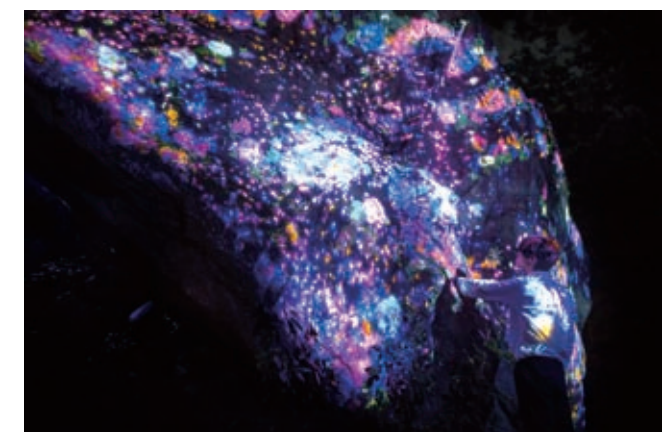
「広大な庭園と森の中で迷い込んで、自分がまるで何かの一部であるかのような感覚になっていくような展覧会をやりたい」との思いが形になった『かみさまがすまう森』は、私たちに新しい日本庭園の楽しみ方を教えてくれる。

日本庭園とは、庭園という限定された空間に留まるものではなく、周囲との調和によって生み出されるものであり、何代もの庭師の手によってつくり続けられるものであるため、そこには、空間も時間も境目はない。『かみさまがすまう森』では、日没後の庭園で咲いては散りゆく花々の映像を古い巨石に投影したり、小舟の動きにより動きが変わる鯉を池の水面に投影するなど、森そのものの造形を活かすことによって庭園そのものをデジタルアートにした。

デジタル技術により、自然を破壊せず、自然を生きたままアートにすることができるため、庭園はそのままアートとなる。自分自身を取り込まれたかのような空間の中で、暗闇に現代のテクノロジーがぶつかることで、初めて浮かび上がって認識できる自然の側面や場（空間）の魅力があるということを、わたしたちは

この展示によって再発見することができる。

日本庭園の鑑賞方法は解らなくとも、そこで感じられるものは間違いなく日本庭園を鑑賞した時と同じものの、つまり「空間に溶け込むような一体感」だろう。もしかしたら、来園する若者たちも「自然と人が一つになる」という日本的な感覚を観にきているのかもしれない。



『増殖する生命の巨石』。苔むす巨石に花々が永遠に咲いては散っていくこの作品は、コンピュータプログラムによってリアルタイムで描かれ続けており、二度と同じものを見ることはできない。

チームラボ

2001 年より活動を開始。デジタル分野のスペシャリストから構成されている学際的なアート集団。チームラボは、アートによって、人間と自然、そして自分と世界との新しい関係を模索したいと思っている。



室内だけでなく 玄関先にも置くことで、来客者の目を楽しませています。

小さいものは、リビングなどのアクセントに最適。

お部屋で楽しむ！ 日本の庭園

写真・協力：庭匠 風玄 東京
撮影：金井元

室内などで日本庭園を気軽に楽しめる
コンパクトな「ミニ日本庭園」で、
室内の雰囲気が大きく変わります。
ミニ日本庭園のあるお部屋の様子を
少し覗いてみましょう。

自宅の庭を日本庭園にするのは無理でも、「ミニ日本庭園」であれば、生活の中に簡単に日本庭園を取り入れることができます。

ミニ日本庭園の主な材料は苔と石と砂。霧吹きで苔に水分を適度に与えれば、きれいな状態を保てるので、管理するのがとても楽と喜ばれています。リビングや寝室、玄関先など場所を問わず置くことができ、気分によって置く場所も変えられるので、さまざまな楽しみ方ができます。

ミニ日本庭園を気軽に取り入れてみることで、日本庭園の楽しみ方が見えてくるかもしれません。



庭匠 風玄 東京
深津晋太郎と堀内千恵の夫婦で「庭匠風玄東京」を営んでいる。個人邸や料亭、社寺などの作庭や管理を行っている。

召し上がれ、
日本

16

湯豆腐懷石

季節を味わう、もてなしの料理

文：石塚登喜衛 写真：南禅寺 順正

豆腐とは、大豆の絞り汁である豆乳をにがり（凝固剤）で固めたもの。清らかで豊かな大豆の香りと滑らかな舌触りから日本人に愛され、タンパク質、ビタミン、ミネラルなど栄養価も高いことから、現代では健康食品としても注目されている。

湯豆腐は、昆布を入れた湯で豆腐を温め、醤油ベースのつゆと少々薬味で食べるのが基本の料理。シンプルな料理ゆえに、豆腐の美味しさを最大限に味わえる。地域や店によっては、ぼん酢しょうゆを使ったり、ねぎやかつおぶし、大根おろしを加えたりとつゆや薬味に好みがわかる。

仏教の戒律に基づき禅宗の修行僧が食べる精進料理に始まるといわれ、今でも京都の南禅寺周辺の禅寺な

どでは庭園を眺めながら湯豆腐を食べるお店が多い。水の良い京都は、発達した仏教文化とともに豆腐料理が好まれる土地柄であった。豊富な魚介類がタンパク源としてあった江戸（現在の東京）に比べ、京都が山国であったことも豆腐が大切にされた理由かもしれない。

湯豆腐懷石は、茶会での食事である懷石を湯豆腐に応用したもの。懷石は客をもてなし、茶をおいしく味わうための和食のコース料理が提供されるが、湯豆腐懷石では、湯豆腐をメインとして、味噌を付けた「豆腐田楽」など、さまざまな豆腐料理を味わうことができる。彩り溢れる季節の食材を楽しみながら、目の前に広がる表情豊かな美しい庭園を眺める。その静かな時間は、心までもを満たしてくれるに違いない。



湯豆腐は鍋の中で豆腐が揺れ動いたら食べごろ。



田楽とは、串に刺した豆腐やこんにゃくなどに、味噌をつけて焼いたもの。





れき し かん てい えん まち
歴史感じる庭園の街

岡山

文：石塚登喜衛

写真：公益社団法人 岡山県観光連盟、難波由城雄、
夢二郷土美術館 本館、招き猫美術館



上 / 岡山駅前の広場に立つ桃太郎像。待ち合わせの場所として人気がある。
右 / 岡山城は外壁の板に黒漆が塗られた黒い城として知られる。



「晴れの国」という気持ちの良いキャッチフレーズを与えられたこの地は、桃から生まれた男児が鬼退治をする日本の有名な昔話、桃太郎の舞台であり、岡山城や日本三名園に数えられる後楽園などを擁し、歴史と伝統、豊かな自然が調和する城下町である。

岡山城は1615年に整えられ、江戸時代（17世紀～19世紀）を通じて藩主の居城となり、黒塗りの印象的な外観から烏城とも呼ばれる。最上階からは岡山市街を一望することもできる。

後楽園は1700年につくられた広大な大名庭園で、国の文化財の種類の1つである名称の中でも特に価値の高い特別名勝に指定されている。園内には藩主の居間や能舞台などの日本建築も残され、春の桜に始まり、夏の蓮、秋の紅葉、冬の椿などとともに四季折々、日本らしい風情が堪能できる。春～秋にかけては夜間も開園され、ライトアップされた庭園など、さまざまなイベントを楽しむこともできる。また、園内には日本を象徴する鳥、タンチョウ8羽が飼育されており、1月～4月にかけて頭の赤、羽の白が鮮やかになるため、庭園の景観により一層の美しさを添える。



春。桜の名所としても知られる後楽園。毎年多くの花見客で賑わう。



夏。建物の中に水路が通った「流店」と花菖蒲畑。



秋。鮮やかな紅葉が美しい「唯心山」。



冬。雪に包まれた幻想的な「沢の池」。



園内で飼育されているタンチョウ。毎年、期間限定で園内散策している姿を見学できる。



竹久夢二《晩春》夢二郷土美術館蔵



2

岡山市には芸術からおもちゃまで数多くの美術館やミュージアムがある。叙情的な美人画で知られる同市出身の芸術家、竹久夢二の作品を展示する「夢二郷土美術館本館」は肉筆作品が多く所蔵されていることで有名。運が良ければ、美術館のお庭番として人気者の黒猫の「黒の助」があなたを迎えてくれるだろう。まるで夢二の絵から飛び出たような姿に心奪われることまちがいないだ。

猫好きなら、「招き猫美術館」にも寄るべきだろう。この懐かしい日本家屋の美術館には、商売繁盛の縁起物として親しまれる招き猫が700体も展示されている。招き猫の種類も木や紙、石でつくられたものなど多種多様だ。帰りはミュージアムショップで自分好みの招き猫を購入して幸運のお守りにするのもいい。

移動は、猫の路面電車やバスに乗りたい。岡山駅と夢二郷土美術館や後楽園を結ぶバスには「黒の助」がラッピングされ、降車ボタンを押すと鳴く「にゃ〜」に思わず微笑んでしまうことだろう。

時間に余裕があれば、吉備高原を横断する吉備街道も訪れたい。桃太郎伝説ゆかりの地が点在している。

1. 竹久夢二「晩春」（1926年）猫と女性が同じようなポーズをとる姿が描かれている。
2. 「夢二郷土美術館本館」の副館長に抱かれる黒の助。
3. 「招き猫美術館」では、沢山の招き猫が出迎えてくれる。猫好きにはたまらない美術館といえるだろう。



黒の助がラッピングされたバスで楽しく移動できる。



「日本 100 名城」のひとつである鬼ノ城は展望も良い。



上 / 吉備津神社の回廊。季節ごとに変わる景色を眺めながらゆったりと移動できる。
右 / 備中松山城は天空に浮かぶような姿から「天空の山城」などとも呼ばれている。

例えば、7 世紀後半ごろに築かれた標高 500m の鬼ノ城。さわやかな高原を満喫できる。吉備津神社に寄れば、県の重要文化財に指定されている約 400m の回廊が心を癒してくれることだろう。さらに備中松山城まで足を延ばせば完璧だ。一帯が雲海（朝霧）に包まれた時は幻想的な光景となる。

岡山市の見所を巡ったら、お土産には岡山の風土を感じる特産品を買いたくなる。初の国産ジーンズ誕生の地であり、丁寧な職人仕事から世界的な人気を持つ岡山デニムは、隣接する倉敷市の児島が有名だが、岡山市内でも購入できる。食べ物でいえば、岡山名物のきびだんごもいいし、特に果物王国岡山ならではの美味しい果物も外せない。岡山発祥のブランド「清水白桃」は極上の甘みを持ち、生産量は全国 1 位。瀬戸内の温暖な気候が上品な香りと爽やかな甘さを加えた果物の女王「マスカット・オブ・アレキサンドリア」や岡山で開発された「ピオーネ」（種なし）も生産量全国 1 位でおすすめ。郷土料理であるママカリという魚を使った寿司なども味わっておきたい一品だ。

岡山エリア地図

●交通案内

羽田空港から岡山空港へ約 80 分。空港からバスで岡山駅のバスターミナルまで約 30 分。

●問い合わせ

ももたろう観光センター
TEL. 086-222-2912

岡山市観光案内所
岡山市北区駅元町 1-1JR 岡山駅 2 階



4. 桃太郎のアイテムとして有名な「きびだんご」。
5. 岡山では、最高品質の桃やぶどうを食べることができる。
6. 岡山近辺で「ママカリ」と呼ばれている魚を使った寿司。さっぱりとして美味しい。

ニッポン
みやげ-17



枯山水キット

文：石塚登喜衛 写真・協力：みどり屋 和草

枯山水とは、池や水を用いることなく、石や砂で山水の趣きを表現した日本の庭園様式であり、室町時代(14世紀後半～16世紀)に禅宗と呼ばれる仏教の一派の影響を受けながら育まれてきた。もしあなたが枯山水を見て心を動かされるものを感じたら、枯山水を自宅で気軽に楽しめるコンパクトなキットをお土産に買ってはどうだろうか。

石の構成や配置は大海に浮かぶ島々や山などを表しており、自分が感じたままを形にしていく。枯山水で

は水の表現も重要な役目を果たしており、砂の文様がそれにあたる。文様には、石の周囲にぐるりと円を描くものや曲線により川などの水の流れを表すものなど、さまざまな種類がある。

桐箱に砂地を敷き石を配置し、熊手で模様を描けば、禅寺を訪れた時の静寂と感動が蘇ってくる。描いた模様からは海や川の水を感じることができるだろう。日本のミニチュア文化ならではのコンパクトなスペースで、広大で奥深い精神世界に触れてみてほしい。

niponica

にぽにか no.26
(日本語版)

発行／日本国外務省

〒100-8919 東京都千代田区霞が関2-2-1

<https://www.mofa.go.jp/> (外務省ホームページ) <https://web-japan.org/> (日本紹介ウェブサイト)